

平成 22 年 12 月 1 日
東京地下鉄株式会社

副都心線北参道駅のシャッター開扉失念について

東京地下鉄株式会社（社長：梅崎 壽）では、平成 22 年 12 月 1 日（水）に副都心線北参道駅でシャッター開扉を失念し、3 名のお客様が始発列車にご乗車できず、また 1 名のお客様が駅から出られないという事態が発生いたしました。ご利用のお客様に大変ご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。詳細は下記のとおりです。

記

- 1 発生日時
平成 22 年 12 月 1 日（水）4 時 50 分から 5 時 18 分まで
- 2 発生場所
副都心線 北参道駅（渋谷区千駄ヶ谷 4-7-11）
- 3 影響
始発列車に乗車できなかったお客様 3 名
駅から出られなかったお客様 1 名
- 4 状況
4 時 50 分に駅事務室からの遠隔操作により出入口シャッターを開扉すべき駅社員（50 歳、経験年数 31.7 年）が、開扉したと思い込み、開扉作業を失念しました。このため、北参道駅の全ての出入口（2 箇所）が開扉しませんでした。
5 時 16 分頃に駅から出られなかったお客様からのご指摘で判明し、5 時 18 分にシャッターを開扉しましたが、3 名のお客様が始発列車にご乗車できず、またご指摘をくださった 1 名のお客様が駅から出られませんでした。
- 5 原因
シャッター開扉をしたものと思い込み、失念したものです。
- 6 今後の対応
 - (1) 当該管区での取り組み
シャッター開扉失念事故の重大さについて教育を実施するほか、当該社員に対しては加えて個別教育を実施します。
 - (2) 全駅務管区での取り組み
 - ア 再発防止の徹底に関する文書を全駅務管区へ送付し、各駅務管内の同種作業について早急に点検を実施し、不備がある場合は改善を図り、同種事故の再発防止に万全を期するよう徹底します。
 - イ 駅務管区長会議を開催し、所属員に対し点呼時教育等で同種事故の再発防止について徹底するよう指導します。

以 上